| | |
|---|---|
| 項　目　名 | ベット４点柵廃止とオムツ外し |
| 表　　題 | 残存能力の支援と職員の積極的関わり |
| 施　設　名 | ハートランド三恵（介護老人福祉施設） |

## 1　利用者の状況

90 歳代　女性　要介護度 4　　痴呆性老人の日常生活自立度IIIb

【病名（既往症）及び病状】

変形性関節症・老人性痴呆症・不整脈・痔核・白内障（H 元. OP）・食道裂孔ヘルニア 右大腿骨頸部骨折（H12. 3 OP）・逆流性食道炎・椎間板ヘルニア

## 2　施設内の生活における現状や課題

【身体的な状況】

- 下肢筋力低下のため転倒の危険ある、食道裂孔ヘルニア、逆流性食道炎 のため、少量ではあるが所かまわず嘔吐を繰り返す。
- 痔核があるため、排尿、排便時、脱肛あり痛み訴えるため、都度熱いタオルでおさえながら拭く。
- 全身に湿疹できやすくエンペシドクリーム塗布。

【痴呆の状況】

- 記憶障害、失見当、幻視、幻聴、脱衣行為、不潔行為、放尿（リネン庫、蒲団、他の居室等）徘徊（他の入所者の床頭台の中を触りトラブルになる）、収集癖

## 3　拘束に至った経過や原因と考えられるもの

当施設入所前は、昼夜オムツ使用で、本人の訴えがある時は、時々ポータブルトイレで対応していた。

立位不安定にもかかわらずポータブルトイレ、車椅子への乗降のほか、自力歩行をしようとするので、転倒の危険性がある。

夜間、職員の目が届かない時間帯に、転倒の危険性が高く、入所時から家族の希望で柵を 4 本使用（夜間）となる。

## 4　ケアカンファレンスでの意見や協議内容

- 下肢筋力がかなり低下し、立位が取れにくくなっており、尿意、便意はあるが、オムツを外したり、パンツを下げたりしている間に失敗することが多い。
- 昼間は車椅子での離床時間を長くして見守りで声かけ、トイレ誘導を行う。夜間は見守り可能な寮母室に近い居室にしているので見守りを頻 回にして物音や不眠の時は声かけ、ポータブルトイレ介助する。

## 5　拘束廃止に取り組んだ過程や取り組み状況

夜間、ベット上でオムツを外し蒲団に放尿、下半身脱衣行為、ベット柵を外し枕にしたりする行為が続いた。拘束委員会によりベット柵使用について見直しをする。家族の了解を得てベット柵２本にして様子を見ることにし、１週間観察、記録をとり検討した。

その結果、転倒はベット柵に関係するものではないと解ったので、ベッド柵を２本にして自由に降りられる状態にしておく方がいいのではということで家族に説明し、了解を得て対応した（身体拘束廃止）。その後、夜間に他の居室に入り床頭台よりお菓子やハサミを持ち出したり、介護材料室にて放尿したり他の人のロッカーを動かせたり、気分不安定が続き、転倒も何度かあったため、精神科 Dr に相談 H14. 1. 30 よりリントン服用となる。その後比較的落ち着く。

トイレ介助オムツより紙パンツに変更して対応していたが、朝の忙しい時間帯に自力でポータブルトイレ使用し失敗が多く、カンファレンスにて紙パンツは下げにくいので思い切って失禁用布パンツに変更し様子観察となる。昼夜声かけトイレ誘導を行っている。

## 6　改善の成果

夜間については、見守り可能な寮母室に近い居室で対応しているので見守りを頻回にして、物音や不眠の時は声かけしポータブルトイレ介助で夜間も昼間と同じ失禁パンツに尿取りパット使用で対応できている。

最近は、精神的にも安定しており、日中余暇活動をする時はリーダー的存在で歌ったりして過ごされている。

## 7　担当職員の感想、意見

事例者以外にも現在オムツ外しに取り組んでいるが、トイレ誘導介助者を寮母室近くの居室に集め排泄記録をもとに対応している。４名とも昼夜オムツでしたが現在は、オムツ外しに成功している。

失敗することもあるが、失敗を恐れることなく気長く対応し、介護者全員が一つになり統一した処遇に心掛けることで、難しいと思っていたオムツ外し、当り前のようにしていた抑制（身体拘束）も多くの職員の知恵や意見を出し合いカンファレンス→実施、観察の過程を得て以外と簡単に廃止する事が出来た事を介護者として喜びを感じている。